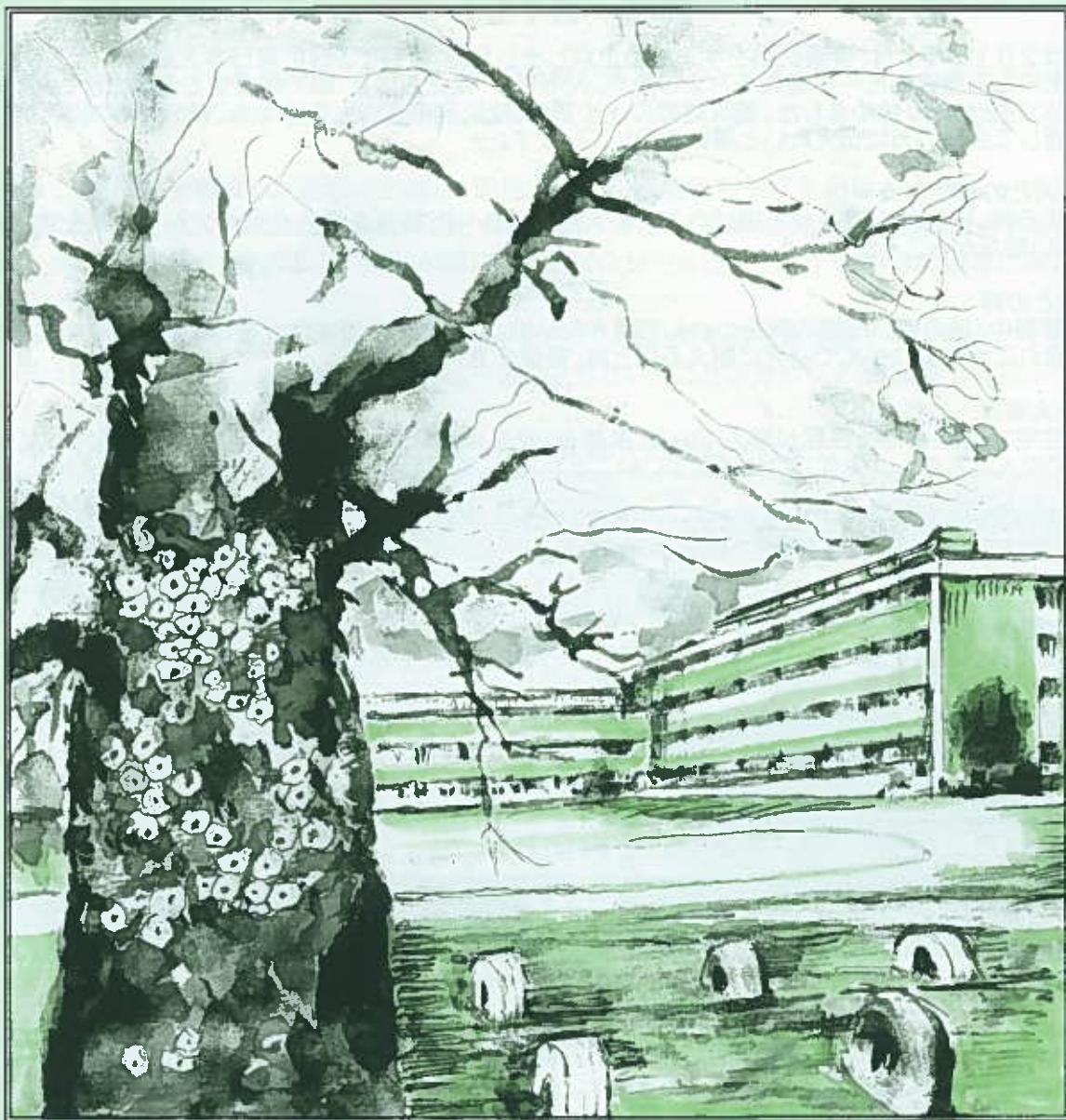


～男女共同参画社会の実現に向けて～



ひと ひと  
幸手市女と男の情報紙  
第20号 2015

モア(MORE)とは、女と男がより豊かに、よりすばらしい  
男女共同参画社会実現への願いを込めて命名しました。



絵・デザイン 三澤昭人 作

- ◆ひとひと  
**女と男の共生セミナー**
- ◆日本女性会議2014札幌
- ◆第23回埼葛人権を考えるつどい
- ◆市民の暮らしを守る幸手警察署副署長



幸手市のマスコットキャラクター  
さっちゃん

# 平成26年度 女と男の共生セミナー



テーマ「音楽の力～みんなで繋げよう明日へ!!」

講師 HILL STONE

二人は2011年2月、音楽活動をするため上京しましたが、3月11日に東日本大震災が起り、石田さんの実家のある徳島県に一時避難をしました。二人で考え、僕たちにも「歌で励ますことができるんじゃないかな」と思い曲をつくり始めました。被災地でのライブや、被災者の皆さんとの話から、自分たちが感じたことを、音楽を通して全国の方に伝えたいと思い活動しています。



(左:岡田正紀氏 右:石田勇己氏)

## 1.人と人との助け合い

避難する時、無我夢中で裸足で逃げた多くの人たち。寒い中、被災を免れた家をまわって靴を集め消防団員。辛い時だからこそ助け合う。

## 2.家族との絆

津波警報中、足の悪い母親の腕をつかんで離さない娘。自分は血を流すケガをしながらも手を離さない娘。津波の流れにも柱をつかんで必死に耐える母と娘。最後まで一緒にと…。

## 3.命の大しさ

仮設住宅で高齢者の孤独死が増えている。家族を、家を、地域を失い生きる楽しみが何もない。でも、ボランティアの人たちから、「生きていれば必ずいいことがある。毎日いっしょにお茶を飲もうよ。」と励まされて。

どの曲の歌詞からも3つの思いが伝わってきて、東中生徒の皆さんの中深く感動を与えていました。最後に、「夢を見つけて欲しい。実現にむけて頑張って欲しい。そして一日一日を大事に」というメッセージがありました。

## 〈生徒の感想から〉

- ・2時間の講演と話を聞いて、記憶から薄れていた震災のことを思い出し、生命の大しさや助け合う事の大しさ、音楽の素晴らしさを感じることができました。
- ・震災の中で、人と人との繋がり合いの力の強さがよくわかった。自分の命が危ない中で人を助けることは容易にできることはないけど、他の人のためにできることをしたいと感じた。

## 〈講演を終えて…〉

今回の共生セミナーで、東中生徒の学ぶ姿勢のよさ、また、2人の講師の人間性でもある、ひたむきな活動を理解してほしいという考え方にも強く心を打たされました。

## 男女共同参画アンケート結果

会場校の生徒の皆さんにアンケートを実施しています。  
ご協力ありがとうございました。

### 「男性は仕事、女性は家庭」といった考え方もありますが、どう思いますか？



### 生まれ変わるとしたら男とどちらがよいですか？





# 日本女性会議 2014札幌



～未来の景色は、わたしたちが変える。～

今年の日本女性会議は10月17日(金)・18日(土)、札幌市で開催されました。多くの方々の力が結集された会議は熱気にあふれ、全国から1,700人が参加しました。テーマの「未来の景色は、わたしたちが変える。」とは何を言わんとしているのでしょうか。

男女共同参画社会の実現に向けては、多くの課題があります。その課題を分科会で取り上げ、地道に活動している事例から解決策を討論しました。10ある分科会の中から、様々な年代の女性が、公私共に環境の変化に対応しながら社会で働き続けるために必要なことは、一人で抱え込まずに、コミュニケーション能力を高めて多くの協力者を得ること。そして、柔軟な心で創意工夫をしていくことが大きく変わる始めの一歩になるのではないかと強く感じました。

2日目には講演が二つあり、ヴァイオリニストで札幌交響楽団コンサートマスターの大平まゆみ氏の講演「100才まで弾くからね」と、柔道家で筑波大准教授の山口香氏「強くやさしい社会を実現するために」でした。

その中で、講道館を創設した嘉納治五郎は、明治の頃から講道館女子部を発足させ、男女の体の違いをふまえ慎重に育成していくことに心を碎いたと初めて知りました。そのためか、長い間試合をすることは許されなかったといいます。今のように男女が同じように試合ができるようになったのは、改革に奔走した女性たちがいたからです。

「未来の景色は、わたしたちが変える。」とは、今より少し女も男も誰もが生きやすい社会にするために、変えるのは自分自身、アクションを起こすのは一人ひとりということが分かりました。自分は何ができるかを考えて行動する大事さを感じました。

次回は、2015年10月9日(金)・10日(土)に岡山県倉敷市で開催されます。

## 第23回埼葛人権を考えるつどい ～出会い・ふれあい・思いやり～

第23回「埼葛人権を考えるつどい」が、10月16日(木)三郷市文化会館で盛大に開催されました。今回のつどいのテーマは「情」です。

大ホールでは、三郷市立彦糸中学校3学年全員125名の生徒が力を合わせてオペレッタ「希望の木」を熱演。東日本大震災後に、奇跡的に残った1本の松の木を題材に「強く生きることの大事さ」「くじけずに困難に立ち向かう勇気を持つ大事さ」を精一杯に演じる生徒たちに、来場者たちは心を動かされました。

心がつどう情熱の広場では、4市合同(三郷・八潮・越谷・吉



三郷市立彦糸中学校



地域で共に生きるナノ

川)による「よさこいソーラン踊り」を披露。中でも、三郷市「地域で共に生きるナノ」は障がいを持った人、支える人、顔の見える関係を大事につなぎあい、つむぎあい、出会いを大事にして様々な形で表現していく事を楽しんでいるという団体で、まさにそれを感じさせる踊りでした。越谷会場から始めた、埼葛12市町の児童・生徒・教職員が東日本大震災の復興を願う思いを込めて作られた折り鶴は今年で合わせて408,955羽にも!

そして今回も心温まる多くの演出により来場者数5,500人の皆さん的心が一つになってフィナーレを迎きました。健常者と障がい者が1つのことに、一緒に活動していること、また、老若男女が支え合っている姿に大変心を打たれました。 ⇒次回開催は、2015年10月15日(木)開催 会場:春日部市民文化会館

# 特集

## —安心安全をありがとう— 市民の暮らしを守る



埼玉県警マスコットキャラクター  
ポッポくん（左）、ポポ美ちゃん（右）

2014年3月の人事異動で埼玉県警で初めての女性副署長となつた千種寿代氏へインタビューいたしました。その様子をQ&A形式で紹介いたします。

- Q. 警察官として家庭と仕事との両立は大変難しいとは思いますが、工夫はありますか。  
A. 私は家庭をかえりみる余裕がなかったので…。  
同職種の夫や実家の理解と協力があったからこそ、ここまでくることができました。  
Q. 千種さんが働き始めたころと今とで、職場環境で変わったことはありますか。  
A. 以前は育児休業がありませんでしたが、今はあります。そして、仕事と家庭を両立する女性が増え、それを積極的にサポートする男性が増えました。  
Q. 仕事をする上で、気をつけていることはありますか。  
A. 相手の目線に立って物事を考えることに気をつけています。



### 幸手警察署副署長

ちくさ ひさよ  
千種 寿代 氏



#### 経歴

昭和57年4月に20歳で県警に採用され、川口署へ配属された。その後平成15年に「警部」へ昇進され、平成26年3月から幸手警察署副署長

- Q. 現在、女性警察官の数は全体の7%弱ですが、どのようにお考えですか。  
A. 確かに多くはないですが、昔に比べたら、女性の人数は増えたと実感します。  
Q. 何か市民の方に訴えたいことはありますか。  
A. 現在、振り込め詐欺が非常に増えているので、本当に気をつけていただきたいです。幸手署では、事件を防止するため、署員が一団となって努力しています。市民の皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

#### 〈最後に…〉

「限界なんてない、限界があると思い込んでいるだけ」というレディ・ガガの言葉があります。これを初めて聞いたとき衝撃を受けました。女性という限界にとらわれず同じ仕事をするなら、やってやろうという気持ちになります。「だから女はダメなんだ」と言われたくなかったです。一警察官として、仕事をまっとうしてきた結果、今があると思います。

## 編集後記

今年度の活動から、多くのことを感じたので、その中の一つを例にして取り上げてみます。市内の中学校を会場として行われる「女と男の共生セミナー」を通して、性別にかかわりなく男女が互いに考え方や生き方を認め合い、家庭や地域社会の中で行動できるように少しづつ変容してきたように感じられます。今まで以上に生徒一人ひとりの個性や能力に応じた教育や学習の機会の充実をさらに図ることが重要になると考えています。

これからも、女性にも男性にも住みやすい幸手市にしていきたいと願い、この「モア」がその一助になればと思っています。

## 表紙の絵

未来の日本を支えるのは、子どもたちです。市のシンボルの桜とさくら小の子どもたちが健やかに成長することを願い表現しました。